

平成20年度 TA 活動報告書(後学期)

TA	2回生	学校教育専攻	学校教育専修
TA 採用教員名	渡邊 弘純		
TA 採用授業科目名	心理学演習		
採用延べ時間数	授業科目：30時間		

【TA 活用内容】

文献検索の援助（2時間）

最初の2時間：図書館のホームページより、インターネットによってデータベースにアクセスし、受講者各自のテーマにしたがって、日本語文献5、及び英語文献5を見つけて出す。その後、心理学の文献記載の様式により、文献一覧をA4・1枚に作成し、提出する。TAは、各受講者それぞれの文献検索を援助し、また、文献記載の方法についても援助する。

英文読解と報告書作成援助（28時間）

各受講者は、英文文献1論文を選択し、これを読解し、報告書レジュメを作成して、授業で報告する。TAは、毎回の論文読解と報告書作成を援助する。

【TA 活用による教育的効果】

(1) 文献検索の方法の習得

受講者は個人差が非常に大きい。文献検索が十分でない受講者に寄り添い、各受講者が自力で、以後、検索が出来るようになるまで援助できる。特に、英文文献検索に有効である。

(2) 文献記載の方法の習得

心理学の文献記載方法は、細かな約束事が多い。受講生の文献記載方法の誤りについて、細部に渡って修正することが出来る。

(3) 英文読解と報告書作成援助

英語論文の読解力には個人差が大きい。不得手な受講者を励まして、受講者と共に英語論文を読み、一緒に報告書レジュメを作成する。場合によっては、報告をためらう受講者がいる場合には、精神的な支えとなって援助することもある。毎年、そのような受講者が1名位生まれる。

【TA 活用上の今後の改善点・課題等】

文献検索の援助については、授業時間中ということもあるが、授業内容が盛りだくさんであるため、文献検索も授業時間外に、宿題とすることが少なくない。

文献記載方法の習得についても、そのTAによる添削は全て授業時間外に行われている。

また、英語論文の読解援助や報告書レジュメの作成についても、その全てが宿題として、受講者に課せられる。

したがって、TA活動は、そのほとんどが、授業時間以外に行われることになる。このため、受講者が、十分にTAを活用した場合には、TAの負担が非常に重くなる。現在のところ、一部の受講者がTAを活用しているため、過重労働の問題は軽微である。

授業時間外でのTAの活用という場合には、TAと受講者の時間調整の困難さもある。

最新の英語論文の読解であるため、選択された論文によっては、TAの専門的力量が及ばない場合もある。